

高崎市文化財調査報告書第 281 集

菅谷・村東遺跡 4

—看護・介護施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2011

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 281 集

菅谷・村東遺跡 4

—看護・介護施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—





2011

高崎市教育委員会

例言

1. 本書は看護・介護施設建設に伴う菅谷・村東遺跡第4次調査(高崎市遺跡番号480)の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市菅谷町字村東20番地187ほか6箇である。
3. 発掘作業・整理等作業は、高崎市教育委員会が委託契約を締結した株式会社測研の協力を得て実施した。
4. 発掘作業から整理等作業を経て本書刊行に至る経費は、事業主である豊田明美氏に負担して頂いた。
5. 発掘作業は平成22年7月26日～9月18日、整理等作業は9月19日～平成23年4月15日まで実施した。
6. 発掘調査の体制は下記の通りである。
高崎市教育委員会 田口一郎 須田奈保子 滝沢 匡
株式会社 測研 高林真人 水谷貴之 山崎 悟
7. 本書の執筆はⅠを田口、Ⅱ～Ⅳ・Ⅴ～(1)・(5)・Ⅵを水谷、Ⅴ～(2)～(4)を山崎が行い、編集は水谷が行った。
8. 整理等作業の実施にあたって、出土遺物の注記内容は、遺跡番号・出土遺構名・出土位置などを記入した。
9. 出土遺物及び図面・写真などの調査記録類は、すべて高崎市教育委員会が保管している。
10. 発掘作業と整理等作業にあたり、下記の方々・機関からご指導・ご協力を賜った。(順不同・敬称略)
豊田明美 中村岳彦 佐々木沼貴 山下工業株式会社 アート写真

凡例

1. 本書で使用した座標は全て世界測地系である。挿図中では下3桁を表示し、Y座標にはマイナスを付した。
2. 本書の挿図中における北方位(N)は座標北を示す。遺構断面図中の「L」は標高を示す。
3. 遺構の主軸・長軸方位などは、座標北(N)から東(E)または西(W)方向への角度として計測した。
4. 発掘調査と本書では以下の遺構略称を併用した。
竪穴住居跡=SI 土坑=SK 溝=SD 井戸=SE ビット=P
5. 遺構実測図の縮尺は全て挿図中に明示したが、主なものは下記の通りである。
竪穴住居跡・土坑・井戸 平面・断面図 S=1/60 溝 平面・断面図 S=1/100
6. 遺物実測図の縮尺は全て挿図中に明示したが、主なものは下記のとおりである。
土器・瓦 S=1/4 石器・石製品 S=1/3 鉄製品 S=1/3
7. 本書で使用した地図は下記の通りである。
第1図 国土院発行S=25,000地形図「前橋」「下釜川」/第2図 高崎市発行S=1/2,500都市計画基本図
8. 発掘調査での土色観察、本書での遺物色調観察では、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖(1998年版)』を参考とした。
9. 本書で使用したテフラ名称は下記の通りである。
As-A: 浅間A 軽石(1783年) As-B: 浅間B 軽石(1108年) As-C: 浅間C 軽石(3世紀後半)
10. 本書の遺物実測図(土器類)で使用したトーンなどは下記の通りである。
土師器・「土師質土器」・・・・・・ 断面白抜き 
須恵器・・・・・・ 断面黒塗り 
灰釉陶器・・・・・・ 断面トーン  ・ 施釉範囲トーン 
11. 本報告書で「土師質土器」とした遺物は、必ずしも平沢 悟氏による土師質土器の定義(清原・陣場遺跡)に合致しているわけではない。ここではロクロ使用で酸化焙焼成の土器を提示するための暫定的な表記として用いており、「」を所頭の意味で付した。ただし煩雑になると思えたため、本文中や遺物観察表中では「」を外したことを谅解されたい。群馬県内ではこうした土器群の一部に須恵器の系譜が認められるとされ、須恵器として理解されることが多い。

目次

例言・凡例・目次	
I. 調査に至る経緯	1
II. 調査の方法と経過	1
調査の方法	1
調査の経過	1
III. 遺跡の地理的・歴史的環境	2
地理的環境	2
歴史的環境	2
IV. 基本土層と旧地形の復元	5
V. 調査した遺構と出土遺物	5
(1). 竪穴住居跡	5
(2). 土坑・ピット	8
(3). 井戸跡	8
(4). 溝跡	9
(5). 重複溝群	9
VI. まとめ	18
写真図版	
発掘調査報告書抄録・奥付	

挿図目次

第1図	周辺の道跡
第2図	調査区の位置
第3図	調査区全体図
第4図	基本土層図
第5図	SI-1～3平面・断面
第6図	SI-4・5平面・断面
第7図	SI-5ピット断面・SI-6・7平面・断面
第8図	SI-8・9平面・断面
第9図	SI-10・11平面・断面
第10図	SK-1～19平面・断面
第11図	SK-20・21・23・27～32・SE-1平面・断面
第12図	SD-1・2・重複溝群平面・断面
第13図	SI-1～7遺物
第14図	SI-8～11遺物
第15図	SI-9・SK・SD・遺構外遺物

表目次

第1表	十坑計測値なご一覽表
第2表	遺物観察表(1)
第3表	遺物観察表(2)

写真図版目次

図版1	調査区全景(上が北) 調査区鳥瞰(北西を望む/奥が鎌名山) 調査前現況(南東から) SI-1・2全景(西から) SI-3全景(南から)
図版2	SI-4全景(北西から) SI-5全景(北西から) SI-6全景(西から) SI-7全景(南から/SK-23を含む) SI-8全景(北西から) SI-8カマド全景(北西から) SI-8カマド遺物出土状況(西から) SI-9全景(西から)
図版3	SI-9カマド全景(西から) SI-10全景(西から) SI-11全景(北西から) SE-1全景(南から) SD-1・2全景(北から) SK-14周辺(南西から) A区南トレンチ断面(南東から) A区北トレンチ断面(南東から)
図版4・5	遺物写真

I. 調査に至る経緯

平成 22 年 3 月、豊田明美氏（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に看護・介護施設建設予定地内の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地西側隣接地において平安時代の集落遺跡が調査されており、周辺地域にも拡がる可能性が大きいため、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年 4 月 15 日付けで地権者である島中三三代ほか四名より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年 5 月 19 日に工事予定地の試掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居址と推定される遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、事業地と関連して道路拡幅部分の遺構が分布する範囲の記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社測研に委託して実施することとなり、平成 22 年 7 月 21 日付けで高崎市長・事業者・測研の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成 22 年 7 月 21 日付けで事業者と測研の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II. 調査の方法と経過

調査の方法 今回の発掘調査では、調査対象地に A～D 区の調査区を設定して実施した。これら調査区のうち、B 区と C 区は連結させ、一体化している。

表土掘削にはバックホーを使用し、試掘調査の所見を参考として遺構確認面まで掘り下げた。遺構確認面は A 区では基本土層③-2 層、B 区では基本土層②-3 層、C 区では基本土層①-5 層とした。しかし A 区では当初の遺構確認面が誤認であったと判明したことから、要所にトレンチを設定し人力にて掘削し、そのトレンチ内において本来的な遺構確認面での遺構確認を行った。本来的な遺構確認面は基本土層③-5 層の As-C 軽石を含む黒色土層である。B 区でも一部 As-C 軽石を含む黒色土の分布を確認している。D 区は調査区が全て遺構内であった。

遺構の確認は人力によるジョレン精査にて行い、確認した遺構は随時調査へと移行した。大規模掘削や広範囲の耕作攪拌などでは、適宜トレンチによる掘り下げを行い、遺構残存の有無を確認するように努めた。その結果、遺構が確認できればトレンチを拡張して調査を行った。A・B 区で想定されていた「埋没谷」部分はトレンチ調査で対応することとし、効果的なトレンチ配置は行い得なかったものの、その走向方向と深度の把握を調査主眼とした。この「埋没谷」が近世以降の重積層であったことは、第 V 章に記載したとおりである。

各遺構の調査には移植ゴテを用い、土層断面観察用のセクションベルトを残して掘り下げることを原則とした。土層断面記録を終えた遺構は順次完掘することとし、出土遺物のうち必要なものはその状況を記録し、平面図の作成を行った。各記録図面は全てデジタル測量にて作成した。遺構写真の撮影には 35mm 1 眼レフカメラを使用し、モノクロ・カラーリバーサルフィルムにて同一内容を撮影した。併せてデジタルカメラによる撮影も行っている。

調査の経過（調査日誌抄） 7 月 26 日：表土掘削開始。30 日：作業員による作業開始。表土掘削終了。8 月 3 日：D 区遺構確認作業。SI-1・2 調査。4 日：A・C 区遺構確認。各土坑調査開始。5 日：SE-1 調査。10 日：D 区での作業を終了し、この部分のみ埋め戻し。11 日：E・C 区遺構確認作業。12 日：SI-3 調査。17 日：SI-5 調査。19 日：A 区「埋没谷」の確認作業。24 日：SI-7 調査。各土坑の調査は継続。26 日：SI-6・9 調査。27 日：SI-8 調査。31 日：SI-10 調査。9 月 2 日：SI-4 調査。3 日：A 区「埋没谷」トレンチ掘削。7 日：B 区「埋没谷」トレンチ掘削。SI-11 調査。13 日：空掘前清掃。14 日：空掘実施。市教委による終了確認。作業員による作業終了。15 日：調査区の埋め戻し開始。現場撤収準備。18 日：埋め戻し終了。

Ⅲ. 遺跡の地理的・歴史的環境

地理的環境 本遺跡は群馬県高崎市菅谷町に所在し、関東平野の北西隅奥部に位置する。市城の北側には複合成層火山の標名山があり、その東南麓には扇状地地形が大きく広がる。相馬ヶ原扇状地と呼ばれるこの扇状地地形は火山噴出物の堆積によって形成され、扇端部方向へと下るにつれて緩傾斜になり、標高110m付近で前橋台地の平らな面へと移行する。本遺跡は標高118m前後の緩傾斜面にあり、相馬ヶ原扇状地の扇端部付近に相当する。至近に流れる河川は無く、東側約1.5kmに染谷川が、西側約1.5kmに天王川が、共に南東方向へと流下している。両河川は相馬ヶ原扇状地を流れる複数の中小河川のひとつであり、やがてそれらは井野川へと合流していく。

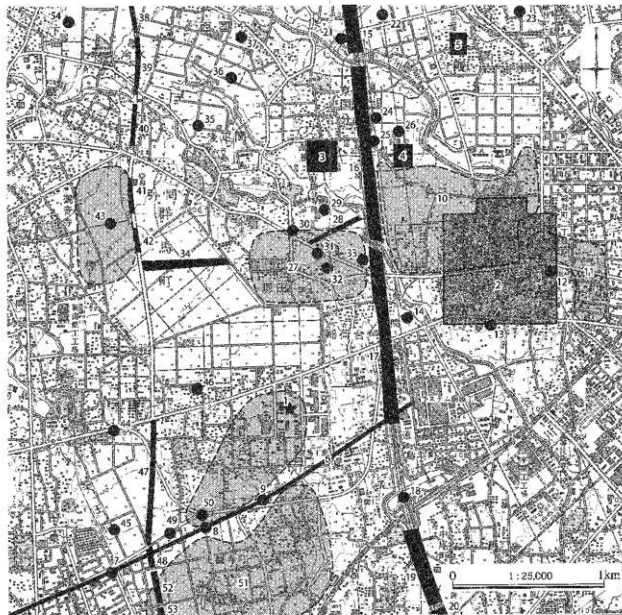
現在、本遺跡地帯は起伏の乏しい平坦地になっている。この平坦地形は、太平洋戦争時における陸軍前橋飛行場造成による結果と考えられ、それ以前には起伏のある微地形が存在したと思われる。地形図に見られるように、飛行場地外の近隣地では、近年まで南東方向への谷地形も認められた。飛行場の造成では、菅谷町地内に存在した溜池も埋め立てられており、場所によっては削平もなされたようである。また飛行場造成に直接関わらないが、周辺での発掘調査や試掘調査によって、南東方向への埋没谷の存在が複数地点で確認されている。

本遺跡は、高崎市役所から見てわずかに北東方向、約6.7kmに位置し、主要地方道「前橋・安中・富岡線」の約200m南側にある。後述する上野国府推定地の中心付近から見れば、南西側約1.7kmの位置にあたる。

歴史的環境 本遺跡周辺での調査事例は多く、縄文時代から中・近世に至るまでの遺跡が見つかっている。加えて、近年では戦争遺跡として旧陸軍前橋飛行場跡(34)の調査も知られている。各遺跡での検出遺構は複数時代にわたるが、その中でも奈良・平安時代の遺構が多く、本遺跡でも平安時代の遺構を多く検出した。そこで、第1図の周辺の遺跡では奈良・平安時代の遺構を主体的に抽出し、本項の記載も当該期に焦点をあてる。

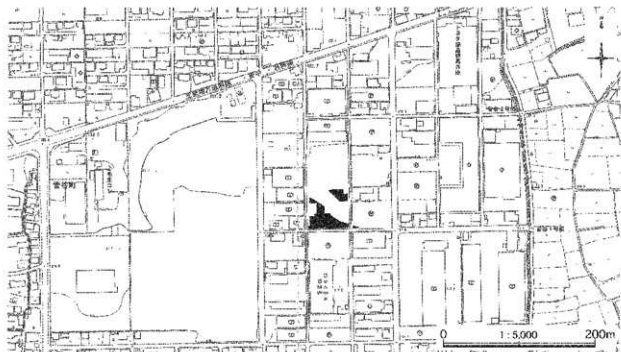
本遺跡を含む地域は古代群馬郡に属し、上野国の中核地域であった。7世紀中葉以降には宝塔山古墳や蛇穴山古墳などの大型古墳が築造されるとともに、初期寺院である山王廃寺(5)も創建された。山王廃寺は「放光寺」の寺名が確認されている。8世紀に入ると当地に上野国府が整備されたと考えられ、その正隣には上野国分寺(3)・国分尼寺(4)が建立された。上野国府の所在地は前橋市元総社町に推定(2)されているが、それを具体的に示す遺構、例えば国庁跡などは発掘調査によって確認されていない。しかし、元総社寺田遺跡(12)で出土した「兩面」「匚書司」などの墨書土器、「斎車」「人形」といった祭祀遺物の存在は、当地に上野国府が存在したことへの傍証となっている。さらに元総社善海遺跡群(10)では大型独立柱建物跡の検出があり、元総社神津遺跡(1)などで確認された大溝は、これを国府の外郭としてとらえる見解もある。また、鳥羽遺跡(17)の鍛冶丁房跡は「官營」としての性格が指摘されており、同遺跡では「禊社」跡と推定された遺構も検出されている。一方、国府推定地の南西側では、複数地点で道路状遺構が調査されており(7・8・9・17・48)、東山道「国府ルート」(6)として推定されている。高貝戸遺跡(9)の調査からは9世紀後半以降に開削、または改修がなされた可能性が推測されている。この路跡に隣接する菅谷遺跡(50)では、竅穴住居跡から墨書土器「路」が出土した。

国府推定地周辺遺跡の多くは、竅穴住居跡を主体とする集落遺跡が圧倒的である。上野国分僧寺・尼寺中間地域(16)での調査のように、各遺跡での竅穴住居跡の分布は極めて濃密であることが多く、著しい重複もしばしば見受けられる。巨視的に見れば9世紀以降に遺構数が増加するようであり、前後の時期を含めた集落動態は興味深い。出土遺物は国府地域を示すに象徴的であり、数例挙げれば、皇朝十二銭が引間松葉遺跡(30)・冷水村東遺跡(39)などで、丸駒・巡方などの腰帯具が国分境遺跡(15)・大屋敷遺跡(23)などで、八鏡鏡が元総社寺田遺跡・天神田遺跡(13)・正観寺遺跡群(51)などで出土している。さらに練軸・灰軸陶器の出土頻度は高く、塚田中原遺跡(31)や西国分新田遺跡(38)では奈良三彩も出土している。その他円面鏡や風字硯などを出土する集落遺跡も多く、官衙的遺物の出が目に付く地域である。集落以外では、小八木志志貝戸遺跡(53)の独立柱建物跡群が「富農層」の「居宅」とされ、やや離れて大(木)屋敷遺跡や下東西遺跡などの官衙的様相が指摘される遺跡などもある。一方では生産域の調査事例も蓄積されており、倉跡やAs-B下水田跡が複数遺跡で調査されている。

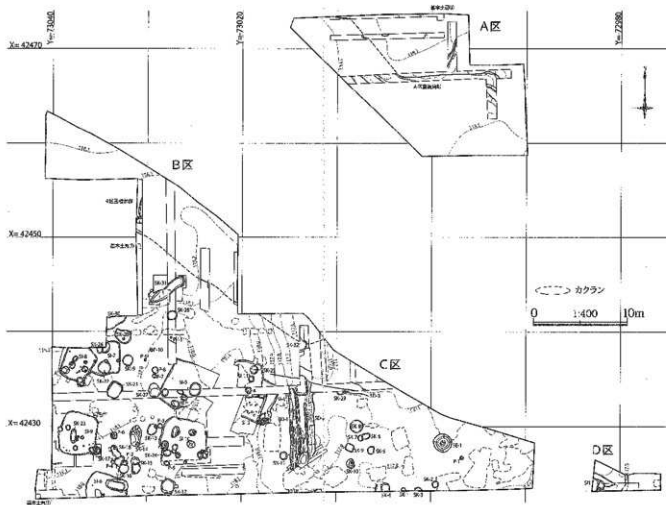


番号	名称	備考	名称	備考	
1	駅前・行徳公園(兼ふたぎ)	駅前	27	通町筋公園	古町一丁目公園、西ノ丁公園、通町筋公園
2	大塚駅前ビル	古町一丁目ビル、通町筋ビル	28	文京区立図書館	通町筋、下町公園、通町筋ビル、古町一丁目ビル
3	北野小学校	北野小学校(旧北野小学校)	29	文京区立児童館	通町筋ビル
4	北野小学校児童館	北野小学校児童館	30	文京区立公民館	通町筋ビル
5	文京区立図書館	文京区立図書館	31	文京区立公民館	通町筋ビル
6	北野小学校(児童館)	北野小学校(児童館)	32	文京区立公民館	通町筋ビル
7	北野小学校(児童館)	北野小学校(児童館)	33	文京区立公民館	通町筋ビル
8	文京区立図書館	文京区立図書館	34	文京区立公民館	通町筋ビル
9	文京区立図書館	文京区立図書館	35	文京区立公民館	通町筋ビル
10	文京区立図書館	文京区立図書館	36	文京区立公民館	通町筋ビル
11	文京区立図書館	文京区立図書館			
12	文京区立図書館	文京区立図書館			
13	文京区立図書館	文京区立図書館			
14	文京区立図書館	文京区立図書館			
15	文京区立図書館	文京区立図書館			
16	文京区立図書館	文京区立図書館			
17	文京区立図書館	文京区立図書館			
18	文京区立図書館	文京区立図書館			
19	文京区立図書館	文京区立図書館			
20	文京区立図書館	文京区立図書館			
21	文京区立図書館	文京区立図書館			
22	文京区立図書館	文京区立図書館			
23	文京区立図書館	文京区立図書館			
24	文京区立図書館	文京区立図書館			
25	文京区立図書館	文京区立図書館			
26	文京区立図書館	文京区立図書館			
27	文京区立図書館	文京区立図書館			
28	文京区立図書館	文京区立図書館			
29	文京区立図書館	文京区立図書館			
30	文京区立図書館	文京区立図書館			
31	文京区立図書館	文京区立図書館			
32	文京区立図書館	文京区立図書館			
33	文京区立図書館	文京区立図書館			
34	文京区立図書館	文京区立図書館			
35	文京区立図書館	文京区立図書館			
36	文京区立図書館	文京区立図書館			

第1図 周辺の遺跡



第2図 調査区の位置



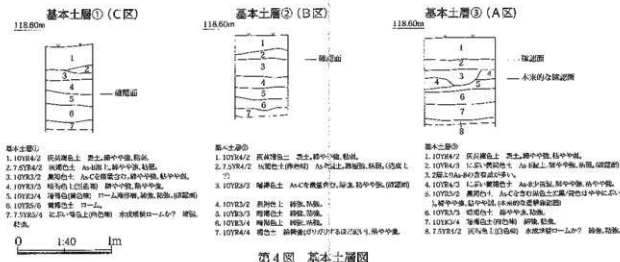
第3図 調査区全体図

IV. 基本土層と旧地形の復元

基本的な土層堆積状況の観察は、調査区内での3カ所の深掘りに行った。基本土層①がC区、②がB区、③がA区に相当する。D区では基本土層の観察は行っていない。観察内容は第4図のとおりである。

基本土層の観察所見から、調査区内での旧地形の復元を試みる。A区ではAs-C軽石を含む黒色土層が存在しており、B区では観察地点の土層断面には現れないものの、その周辺において同一層が存在することを確認している。一方C区ではAs-C軽石を含む黒色土層は存在せず、本来的にその下層に堆積するローム層が現れている。またC区のローム層は、A・B区では水成堆積様になる傾向が認められた。これらのことから本調査区の地形は、現況地形では平坦になっているものの、以前は南側が高く、北側が低い地形であったと推測した。おそらく相馬ヶ原扇状地の緩傾斜面上に微高地が存在したと考えられ、それはC区の南側が主体であっただろう。C区での平坦なローム層確認範囲からみて、旧地形の変換ラインはSI-7付近から東方への延長線であったとみられる。

ところで、現況地形が平坦地化された要因として、旧陸軍前橋飛行場建設時の造成の可能性を挙げる事ができる。しかし、今回の調査ではそれを積極的に判断し得る根拠は得られていない。放出した遺構の上層位にしばしば存在する攪乱層が飛行場造成に関連する上層の印象は受けたが、この攪乱層は調査区内に普遍的に存在するわけではなかった。



第4図 基本土層図

V. 調査した遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (SI-1 / 遺構: 第5図・遺物: 第13図)

位階(座標)D区南東隅(X=425・Y=982付近) 重複関係 SI-2より新しい。平面形態 全形不明。方形か。規模 東西1m29cm(検出長)・南北1m35cm(検出長)・深度17cm程度 主軸方位 N-110°-E 所見 D区内は全て「溝」(後述)の範囲に含まれており、本遺構はその底面付近にて確認された。本遺構は調査区外へと連続するため、カマドの一部と北東隅付近のみの検出である。床面は平坦であるが、北東隅がやや高くなる。カマド前面との比高差は5~8cm程度である。溝溝、柱穴は検出されなかった。カマド 東壁に付設される。左袖と燃焼部底面を部分的に検出した。火床の被熱痕跡、灰層の堆積は確認できない。袖部の構築には、その芯材としてにぶい黄褐色粘土を用い、周囲に暗褐色土を貼り付けている。出土遺物 須恵器環(1)、土師器環(2)、鉄滓(3・4)を図示した。その他、層上中から少量の鉄滓、微量の鍛造刺片・湯玉が出土しており、本遺構は鍛冶関連の遺構の可能性もある。これについては調査範囲内では確認できない。

2号住居跡 (SI-2 / 遺構: 第5図・遺物: なし)

位置(座標) D区南東隅(X=425・Y=982付近) 重複関係 SI-1より古い。平面形態 全形不明。方形か。

規模 東西2m86cm(検出長)・南北48cm(残存長)・深度15cm程度 主軸方位 N-119°-E 所見 本遺構は調査区外へと連続し、且つSI-1によって壊されるため、北壁と床面の一部を検出したのみである。床面は平坦であり、顕著な起伏は認められない。周溝・柱穴は検出されなかった。カマド 検出されなかった。調査区外に存在すると推測する。出土遺物 出土遺物は皆無であった。

3号住居跡 (SI-3 / 遺構: 第5図・遺物: 第13図)

位置(座標) C区中央(X=430・Y=020付近) 重複関係 SI-11より古くSI-4より新しい。平面形態 全形不明。方形か。規模 東西2m29cm(残存長)・南北2m60cm(残存長)・深度23cm程度 主軸方位 N-111°-E 所見 本遺構の西側は掘削によって壊され、北側にはトレンチがある。本遺構の北壁はトレンチ内に該当したと考えられる。床面は地山面を使用しており比較的平坦であるが、緩い起伏がわずかに認められる。硬化もわずかである。周溝・柱穴は検出されなかった。また、本遺構の調査時点では認識できなかったが、北側にはSI-11が存在しており、本遺構とは一部重複状態にある。本遺構床面の状況からみて、SI-11が新しいと判断している。カマド 検出されなかった。東壁以外に付設された可能性もあるが、確認できない。出土遺物 土師質土器環(5・6・7)、羽釜(8)、土釜(9)、須恵器甕(10)を図示した。前述したように、SI-11は本遺構より新しいと考えられるものの、調査過程では認識できなかったため、本遺構の帰属として取り上げた出土遺物の中には、SI-11に帰属するものが含まれていると考えられる。図示遺物では(7・8)の2点がSI-11に帰属する可能性が高い。

4号住居跡 (SI-4 / 遺構: 第6図・遺物: 第13図)

位置(座標) C区中央(X=430・Y=017付近) 重複関係 SI-11・SI-3より古い。平面形態 全形不明。長方形か。規模 東西1m93cm(残存長)・南北4m49cm・深度24cm程度 主軸方位 N-114°-E 所見 本遺構の西側大部分はSI-3・11によって壊され、北東隅部分にはトレンチがある。床面は地山面を使用しており、わずかに硬化する。平坦気味ながらも緩い起伏がある。周溝・柱穴は検出されなかった。貯蔵穴も判然としないが、カマド南脇のピットが該当するであろうか。カマド 東壁最前部に付設される。ほぼ南東隅にあたる。残存状態は不良で、袖部も検出されなかった。焚口部は断面皿状にくぼむ。火床の被熱痕跡は確認できず、灰層の堆積も認められない。出土遺物 羽釜(11・12)、土釜(13)、須恵器甕? (14)を図示した。

5号住居跡 (SI-5 / 遺構: 第6・7図・遺物: 第13図)

位置(座標) C区中央やや南寄り(X=435・Y=024付近) 重複関係 なし。平面形態 全形不明。長方形か。規模 東西2m78cm・南北5m18cm・深度13cm程度 主軸方位 N-119°-E 所見 本遺構の東側は大規模掘削によって壊され、トレンチが東西方向に横切る。床面はほぼ平坦な地山面であり、硬化はやや強い。西溝は検出されなかった。床面には複数のピットが検出されたが、P2は本遺構より新しい。それ以外は本遺構に伴うと判断したが、柱穴として明確なものはない。P1のように大きな掘り込みもあり、床下土坑に相当するものも含まれている可能性がある。一方、土層断面の観察からは、本遺構の東側に重複遺構が存在する可能性を考えた。大規模掘削によって平面的な確認ができず、詳細は明らかにできなかった。カマド 検出されなかった。おそらく東壁に付設されていたと思われる。出土遺物 土師質土器塊(15)、土師質土器環(16)、須恵器甕(17)、須恵器甕(18)を図示した。

6号住居跡 (SI-6 / 遺構: 第7図・遺物: 第13図)

位置(座標) C区南東隅付近(X=425・Y=036付近) 重複関係 なし。平面形態 全形不明。長方形か。

規模 東西4m37cm・南北2m53cm(検出長)・深度14cm程度 主軸方位 N-100°-E 所見 本遺構の南側大半は調査区外となる。床面のほとんどは地山面を使用するが、一部に薄い貼り床認められる。調査区壁隙を主体として硬化が強く、ほぼ平坦である。床面に掘り込まれたピットを1基検出した。周溝は検出されない。また、北東隅の長方形土坑は現代の攪乱であり、掘り込み自体は本遺構に伴わない。 出土遺物 土師質土器片(19)、土師質土器埴(20)、砥石(21)、刀子(22)を図示した。刀子は攪乱土坑からの出土であるが、本来的には本遺構の覆上に包含されていたと考え、掲載した。

7号住居跡(SI-7/遺構:第7図・遺物:第13図)

位置(座標) C区南西隅付近(X=435・Y=035付近) 重複関係 SK-22・26、SI-8より古い。 平面形態 全形不明。方形か。 規模 3m27cm(残存長)・南北3m64cm・深度19cm程度 主軸方位 N-118°-E 所見 遺構の西壁はSI-8によって覆され、北西隅付近は調査区外になる。床面は地山面を使用し、ほぼ平坦であるが硬化はしない。周溝は検出されなかった。東壁中央付近直下でP1が、北壁寄りにはP2が検出された。カマド 検出されなかった。北・西壁に付設された可能性も残るが、詳細は明らかにできなかった。 出土遺物 土師質土器片(23)の底部小破片を図示した。

8号住居跡(SI-8/遺構:第8図・遺物:第13図)

位置(座標) C区北西隅(X=435・Y=039付近) 重複関係 SI-7より新しい。 平面形態 不整長方形 規模 東西3m7cm・南北3m77cm・深度30cm程度 主軸方位 N-118°-E 所見 本遺構の北西隅は調査区外になる。カマド部分も含め、遺構の上層位には攪乱層がある。床面はほぼ平坦な地山面であり、カマド前面の硬化が強い。貯蔵穴は南西隅のP1が該当すると考えられる。床面からは複数のピットが検出されたが、柱穴に相当するかは即断できない。周溝は検出されなかった。カマド 南東隅に付設される。焚口脇に掘えられた凝灰岩が袖石であろう。燃焼部の底面中央には凝灰岩の支脚が立ち、その上に土師質土器の環(24)が逆位でかぶせられていた。火床の被熱痕跡は顕著でなく、灰層の堆積も認められない。なお、袖石と支脚の凝灰岩は赤褐色を呈しており、調査時点では切石状の加工痕跡は認められなかった。 出土遺物 土師質土器片(24・25・26・27)、土師質土器壺? (28)、羽釜(29)、須恵器壺? (30)、灰釉陶器小型長頸壺(31)、埴輪(32)、釣り針の形態に似る鉄製品(33)を図示した。

9号住居跡(SI-9/遺構:第8図・遺物:第14図)

位置(座標) C区西端(X=430・Y=035付近) 重複関係 SK-23より古い。 平面形態 不整形方形 規模 東西4m7cm・南北4m58cm・深度27cm程度 主軸方位 N-97°-E 所見 床面は地山面でありカマド前面の硬化が強い。床面からは複数のピットが検出されたが、柱穴に相当するかは不明である。貯蔵穴に該当する掘り込みも判然としない。周溝は検出されなかった。カマド 南東隅に付設される。袖部は検出されなかった。燃焼部武面はややくぼむ形態だが、火床の被熱痕跡は確認できない。埋没土中に比較的多くの灰を含む層があるが、プライマリーな状態ではない。 出土遺物 土師質土器片(34・35・36・37・38・39)、土師質土器埴(40)、土釜(41)、羽釜(42)、須恵器埴(43)、須恵器短頸壺(44)、埴輪(45)、砥石(46)、棒状鉄製品(47・48)を図示した。

10号住居跡(SI-10/遺構:第9図・遺物:第14図)

位置(座標) C区中央や西寄り(X=426・Y=025付近) 重複関係 SK-24より古い。 平面形態 不整形方形か。 規模 東西5m3cm・南北4m42cm(推定長)・深度14cm程度 主軸方位 N-93°-E 所見 耕作溝や椀土の影響によって、残存状態は極めて不良である。当初は平面プランの確認ができず、遺構確認トレンチを掘り下げた結果、部分的に極めて硬化の強い床面を検出したことから、堅穴住居跡として認識することがで

きた。壁面の残存も不良であり、南壁はまったく残されていない。平面図上の南壁推定ラインは、カマド残痕の位置から推定したものであり、その根拠は乏しい。床面では複数のピットが検出されたが、本遺構に伴うものかの判断はつけ難い。しかし、明らかに本遺構より新しいピット・土坑以外は、本遺構に伴うものとみなした。その中でもP4の底面には扁平な自然礫が据え置かれており、礎板石と考えられる。ただしこれに対応するピットは、本遺構内外ともに検出されなかった。周溝は検出されず、貯蔵穴に該当する掘り込みも不明である。カマド東壁の南寄りに焼土が多く分布する部分があり、これをカマド残痕と推測した。掘乱小穴によって壊されており、本来の形状は全く不明である。出土遺物 調査段階では本遺構の覆土と掘乱土との見分けがつけにくかったため、本遺構出土遺物には掘乱層中に帰属するものが含まれていると考えられる。土師質土器環(49・50・51)、羽釜(53・54)、土釜(55)、土師質土器小型壺? (56)、須恵器環(52)、須恵器甕(57)、磨石(58)を図示した。

11号住居跡(SI-11/遺構:第9図・遺物:第14図)

位置(座標)C区中央(X=435・Y=021付近) 重複関係 SK-25より古く、SI-3・4より新しい。平面形態 全形不明。方形か。規模 東西2m99cm(残存長)・南北3m78cm・深度40cm程度 主軸方位 N-100°-E 所見 本遺構の西側は掘乱によって壊され、西壁を完全に滅失している。南壁と並行する位置にはトレンチがある。床面は基本的に地山面を使用しており、その硬化はやや強い。床面上からはP2を検出した。P1はトレンチ底面からの検出であるが、位置的にみて本遺構に伴うと判断した。貯蔵穴であろうか。さらにP1東隣のピットも本遺構に伴う可能性がある。周溝は検出されなかった。本遺構はSI-3・4と重複状態にあるが、SI-3床面の状況からみて本遺構の方が新しいと判断している。ただし調査段階では重複の認識が無かったことから、カマドを含めてSI-3との調査順序に齟齬があった。カマド南東隅に付設される。トレンチと重なるため、全体的な形状は不明である。さらに、SI-3覆土中に掘り込まれていた可能性が極めて高いが、先述のように調査順序の齟齬があったため、焼土部のみ記録となった。火床の被熱痕跡は認められず、灰の堆積も確認できない。

出土遺物 羽釜(59)、砥石(60)を図示した。SI-3で図示した(7・8)は本遺構のカマドに帰属する可能性が高い。

(2) 土坑・ピット(遺構:第10・11図他・遺物:第14図)

今回の調査では土坑32基、ピット11基以上が検出された。土坑の詳細は第1表を参照されたい。ピットの分布はC区西側に点在し、明確な配列は認められない。土坑の分布ではC区に集中しているが、その中央、東側は遺構密度が薄い傾向にある。覆土ではAs-C混入の土坑が大半を占める。中にはロームブロックが多量に含まれるものもあり、SK-21・23などは埋め戻された可能性もある。As-B混土の土坑についてはSK-30のみで、C区北西隅に検出されている。明確にAs-A混入の土坑は無かった。また、SK-29の覆土は焼土ブロックを多く含み、当初カマドの可能性を考えた。しかし、底・壁面には被熱痕跡、灰などは無く、至近に竈穴住居跡のプランも見出せない事から、その可能性は低いと思われる。各土坑の平面形態は多様であるが、円形基調が多い。断面形態には斉一性がなく、底面は比較的平坦気味のものが多い。遺構の掘り込みは浅いものが主であるが、C区西側に深めの土坑が集中傾向にある。遺物はSK-17・22からの出土が目に付く以外は、少量かつ小破片である。

殆どの土坑の帰属時期は覆土からみて平安時代を推定した。竈穴住居跡を切るSK-22～26は相対的に新しい。

(3) 井戸跡

1号井戸跡(SE-1/遺構:第11図・遺物:第14図)

位置(座標)C区東(X=429・Y=998付近) 重複関係 なし 平面形態 円形 規模 長軸1m97cm・短

軸 1m86cm・深度 1m27cm 所見 断面形態は上部が大きく開く漏斗状である。開口部から深さ 60cm 程で一層テラス状となり、直径 30cm 程の底面に向い傾状に窄まる。井戸枠等の痕跡は無く、土層断面にも現われなかった。至近にはピットが無く、土層等の施設も無かったと思われる。常時 50cm 程溜まる湧水があり、確認面から 70cm 程が湧水面になる。出土遺物 土師器杯 (61・62)、須恵器杯 (63)、須恵器甕 (64・65)、須恵器丸底甕 (66)、古式土師器 S 字甕 (67) を図示した。

(4) 溝跡

1・2・3号溝 (SD-1・2・3/遺構:第17図・遺物:第15図)

SD-1・2はC区中央南壁からの西北方向の溝である。走行方位は同じN-3°-Wとなり、覆土は同じAs-B黄土なので中世以降の溝と考えられる。重複関係ではSD-1の方が新しく、SD-2の埋没後に掘り直したのではないと思われる。両溝は直線的で幅がほぼ均一であるが、南側は調査区外、北側はSD-3付近で不明瞭になる。検出した規模はSD-1が残存長1m10cm・幅1m34cm・深度49cm程度である。SD-2は残存長1m246cm・残存幅1m64cm・深度42cm程度である。断面形態はSD-1が浅い「W」字状に似て、底面の下端両側は浅い溝状を呈する。底面は多少凹凸がある。SD-2の立ち上がりは東側が緩やかであるが、西側はSD-1により埋され不明である。底面は主に平坦であるが細かな凹凸がみられる。両溝の底面には流水痕跡などが無く区画溝の可能性もある。出土遺物はSD-1が須恵器・土師器などがあり、SD-2は土師器・平瓦・青磁などであり、共に小破片が出土している。このうちSD-2出土の平瓦(75)を図示した。

SD-3は東西方向の溝で、聖紙摺印判手の碗が出土しており近代以降と考えたので、平面の記録のみに留めた。

(5) 重複溝群 (遺構:第17図・遺物:第15図)

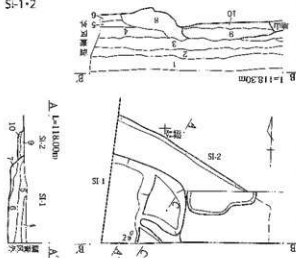
A・B区に相当する位置では、試掘時に地形の落ち込みが確認されていた。この落ち込みは「埋没谷」であろうと想定されていたが、調査の結果、近世以降に開削された溝が複数条重複したものと判断するに至った。

A区北側トレンチの土層断面観察では、「地形の落ち込み」と想定された部分が地山であるAs-Cを含む黒色土層を掘り込んでいる状況を確認した。この部分では、地山層自体が自然的に低位へと落ち込む状況は認められない。よって、「埋没谷」と想定された地形の落ち込みは、人為的に掘り込まれた遺構であると判断できた。覆土は灰褐色砂質土であり、As-B混土と認識した。遺構全体を完掘することはできなかったが、A区南側トレンチの土層断面で観察したように、複数条の溝が重複したものであることがわかった。全体は明らかにし得ないものの、平面的にもA区北側トレンチ内のように重複溝の存在を確認することができる。出土遺物は極めて少なく、各溝への帰属も不明な点があるが、溝の中～下層で近世陶磁器が、上層では現代陶磁器が出土している。下層において近現代遺物の出土が無かったことから、これらの重複溝は近世以降に開削され、掘り直しを併しながら現代まで機能したと推測しておきたい。発掘時期については、上層出土遺物の中に厚付け食器とおぼしきクロム軸絵付けの湯呑茶碗が含まれており、旧陸軍前橋飛行場造成時であった可能性がある。また、溝の底面付近には流水を示す細砂礫層の堆積があり、上層位の重複溝も細砂粒で埋没していることから、用水路としての機能を想定する。出土遺物中から平瓦(76)・近世陶磁器(77・78・80)・食用食器の可能性もある現代磁器(79)を図示した。

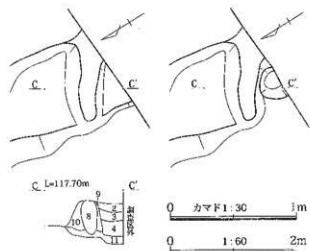
B区の「埋没谷」部分でも、A区同様に地山が掘り込まれる状況を確認でき、人為的な遺構であると判断することができた。トレンチ内の土層断面観察部分には擾乱土坑が重複していたため、普遍的な埋没状況の確認はできなかったが、As-B混土で埋没する溝である。流水痕跡は認められず、出土遺物も皆無であった。

A・B区間には調査区外部分が多く存在するため、両調査区で検出した溝が直接的に関係するかは不明である。仮に両者を一連の重複溝とみれば、その上幅は30m前後を測る大規模な遺構となる。しかし、そうした規模は考えにくい部分があり、且つ覆土中の流水痕跡の相違を考慮すれば、A・B区で検出したそれぞれの溝に直接的

SI-1-2

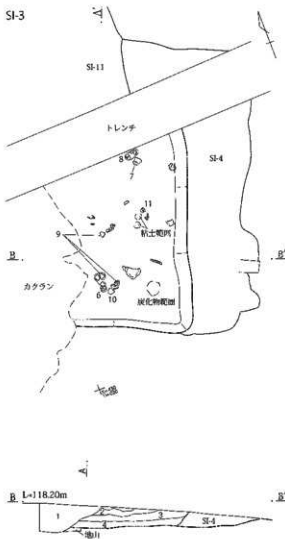


SI-1カマド



SI-1カマド廻り方

SI-3



SI-1 図 2

1. 坪石敷き跡
2. 土留
3. 遺土か? 遺物のある瓦葺屋根の石(机土)
4. 10YR2/3 黒褐色土 粘質、粘土多量、ブロック(φ 10cm)を散置、灰白色土塊(少量)を散置、砂質、砂質、(S-1)
5. 10YR2/2 黒褐色土 粘質、炭化物散置、粘土粘、灰白色土塊を散置、粘土粘を少量含む、砂質、砂質、(S-1)
6. 10YR2/2 黒褐色土 粘質、1mm粉・灰白色粘・灰白色粘土塊を散置、粘土粘を少量含む、砂質、砂質、(S-1)
7. 10YR2/2 黒褐色土 粘質、1mm粉・灰白色粘・灰白色粘土塊を散置、ローム散置を少量含む、砂質、砂質、(S-1)
8. カマド跡(砂質、S-1)
9. 10YR3/2 黒褐色土 粘土粘・灰白色粘土ブロック(φ 5cm)を散置、白色土塊(C7)を少量含む、砂質、砂質、(S-2)
10. 10YR2/2 黒褐色土 粘土粘を少量、白色土塊(Ac-C7)を散置含む、砂質、砂質、(S-2)

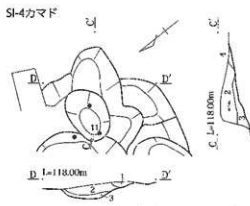
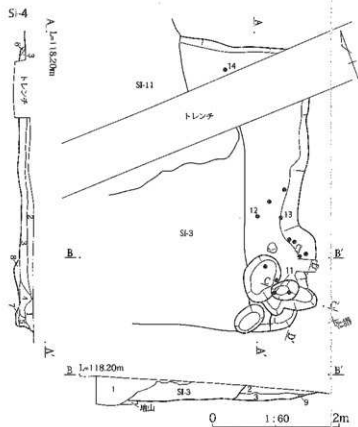
SI-1カマド

1. 10YR2/3 黒褐色土 炭化物散置・灰白色粘土塊を散置、粘土粘・ブロック(φ 5cm)を少量含む、砂質、砂質、(S-2)
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘土粘を少量、灰白色粘土塊を散置含む、砂質、砂質、砂質
3. 10YR2/2 黒褐色土 粘質、粘土粘・ブロック(φ 10cm)・灰白色粘土塊を少量含む、砂質、砂質、砂質
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘質、炭化物散置・灰白色粘土塊を少量含む、砂質、砂質、砂質
5. 10YR2/3 黒褐色土 粘土粘を少量、粘土粘・灰白色粘土塊を散置含む、砂質、砂質、砂質
6. 10YR2/2 黒褐色土 ローム粘・粘土粘を少量含む、砂質、砂質
7. 10YR2/2 黒褐色土粘の粘土粘・粘土粘・ブロック(φ 5cm)を散置含む、砂質、砂質、砂質
8. 10YR3/3 灰白色土 灰白色粘土塊
9. 10YR3/3 灰白色土 炭化物散置、粘土粘を少量含む、砂質、砂質、砂質
10. 10YR3/2 黒褐色土 ローム粘・砂質、粘土粘・ブロック(φ 5cm)を少量含む、砂質、砂質、砂質
11. 10YR3/4 灰白色土 粘土粘・灰白色粘土塊を散置含む、砂質、砂質

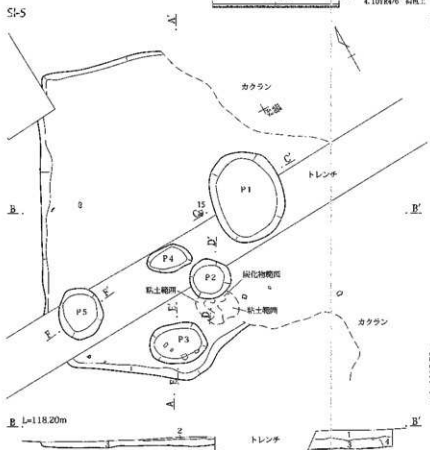
SI-3

1. 瓦葺
- 1'. 土留
2. 10YR3/4 黒褐色土 ローム粘・炭化物散置・粘土粘・心土塊(Ac-C7)を散置含む、砂質、砂質、砂質
3. 10YR2/2 黒褐色土 ローム粘・ブロック(φ 3cm)・粘土粘・炭化物散置・白色土塊(Ac-C7)を少量含む、砂質、砂質、砂質
4. 10YR2/2 黒褐色土 ローム粘・ブロック(φ 1cm)を散置、ローム粘・粘土粘を少量、炭化物・白色土塊(Ac-C7)を少量含む、砂質、砂質
5. 7.5YR4/1 灰白色土 ローム粘を少量含む、砂質、砂質、砂質

第5図 SI-1~3 平面・断面



- SI-4
1. 瓦葺
 2. 10YR2/3 暗褐色土 As C 土少量含む、砂や中砂、粘りや弱。
 3. 10YR2/3 暗褐色土 As C ローム土少量含む、砂や中砂、粘りや弱。
 4. 10YR2/3 暗褐色土 褐色土質土ブロック(不整形)を多数、ロームブロック(φ 1cm以下)を少量含む、砂や中砂、粘りや弱。
 5. 10YR2/3 暗褐色土(黄褐色) 10mm 以下炭化物(木炭)を多数、炭上炭を数箇含む、砂や中砂、粘りや弱。
 6. 10YR2/3 暗褐色土(黄褐色) As C ローム土少量含む、砂や中砂、粘りや弱。
 7. 10YR4/4 褐色土 赤土質炭化物(ローム)を少量、黄褐色に黄土ブロック(不整形)を多数、砂や中砂、粘りや弱。
 8. 10YR2/3 暗褐色土 炭質土質土ブロック(φ 5mm 未満、最大 φ 3cm)・ロームブロック(不整形)を多数含む、炭質の土が顕著し、炭の表面に炭化する炭質、粘りや弱、粘りや弱、炭下(中砂)。
 9. 地山
- SI-4 カマド
1. 瓦葺(同作)
 2. 10YR2/4 暗褐色土 As C 炭化物(木炭)を多数、炭上ブロック(不整形)を多数含む、砂や中砂、粘りや弱。
 3. 10YR2/4 暗褐色土 ロームブロック(不整形)を少量、黄土粒を数箇含む、砂や中砂、粘りや弱。
 4. 10YR4/6 褐色土 褐色(ローム)の炭質土、粘りや弱、粘りや弱。



- SI-5
1. 瓦葺
 2. 10YR2/3 暗褐色土(ローム)炭化物(木炭)を多数、炭上炭を数箇含む、砂や中砂、粘りや弱。
 3. 10YR2/3 暗褐色土 ローム土(炭化物)を少量、ロームブロック(φ 1~3cm)炭化物(炭土質)を多数、黄土粒を数箇含む、砂や中砂、粘りや弱。
 4. 10YR2/3 暗褐色土 ローム土を少量、炭質土質・黄土粒を数箇含む、(炭質土質の黄土土?)
 5. 10YR2/3

第6図 SI-4・5平面・断面



- SI-5P1
1. 10YK3/1 埋戻土(灰土混) As-Cを少量、ロームブロック(φ5mm~2cm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 2. 10YK3/2 埋戻土 As-Cロームブロック(φ5mm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 3. 10YK3/3 埋戻土 As-Cを少量、ロームブロック(φ5mm~2cm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 4. 10YK3/2 埋戻土 As-Cを少量、ロームブロック(φ1cm以下)を中量含む、埋戻りにロームブロック(φ5cm)あり、砂や中砂、粘りや中砂、

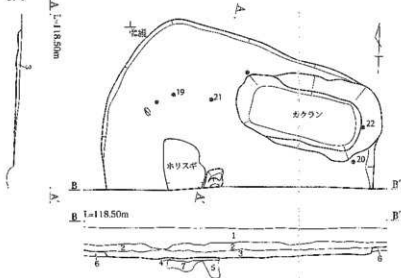


- SI-5P2
1. 10YK3/3 埋戻土 粘土粒・砂粒計(土)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 2. 10YK3/2 埋戻土 As-Cロームブロック(φ5mm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 3. 10YK3/3 埋戻土 As-C粘土粒大径・砂粒を少量含む、粘りや中砂、粘りや中砂、
 4. 10YK3/2 埋戻土 10mm前後ブロックを少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 5. 10YK3/2 埋戻土 10mm前後ブロックを少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 6. 10YK3/2 埋戻土 10mm前後ブロックを少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 7. 10YK3/2 埋戻土 10mm前後ブロックを少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、



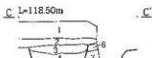
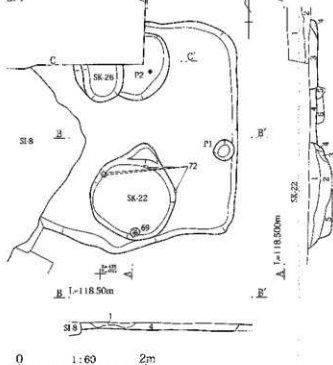
- SI-5P3
1. 10YK3/3 埋戻土 As-Cローム粒を中量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 2. 10YK3/2 埋戻土 As-Cを少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 3. 10YK3/2 埋戻土 As-Cロームブロック(不明)を少量含む、砂、粘りや中砂、

SI-6



- SI-6
1. 基上(緑色の土層)
 2. 基上(緑色の土層)
 3. 10YK3/2 埋戻土 As-Cロームブロック(φ5mm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 4. 埋戻土上(ローム)の埋入土、部分の埋入部分で、裏の部分が緑化する、粘りや中砂、
 5. 10YK3/2 埋戻土 As-Cロームブロック(φ1cm以下)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、(赤トのピット)
 6. 基上(緑色の土層)
 7. 基上(緑色の土層)

SI-7



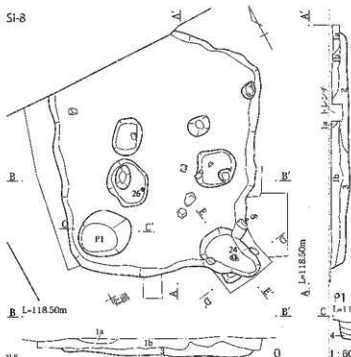
- SI-7
1. 2土ピット(土)の入り口(埋入)
 2. 埋入(As-C)埋入と埋戻土(埋入土)
 3. 7.5YK3/3 埋戻土 ロームブロック(φ5mm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、(埋入土)埋入(埋入)の埋入(埋入)
 4. 7.5YK3/2 埋戻土 As-Cを少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 5. 7.5YK3/2 埋戻土 As-Cを少量、ローム粒を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、埋入(埋入)埋入(埋入)
 6. 埋入(埋入)

- SK-22
1. 10YK3/3 埋戻土 As-Cローム粒を少量、粘土粒を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 2. 10YK3/4 埋戻土 As-C地上土を少量、ロームブロック(φ5mm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 3. 10YK3/5 埋戻土 As-Cロームブロック(φ5mm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、
 4. 10YK3/3 埋戻土 As-Cローム粒を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、(埋入)
 5. 10YK3/2 埋戻土 As-Cロームブロック(φ1cm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、埋入(埋入)埋入(埋入)

- SK-20
1. 埋入土
 2. 埋入土
 3. 10YK3/4 埋戻土 ロームブロック(φ1cm)を少量含む、SK-20
 4. 10YK3/4 埋戻土 ローム粒を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、SK-20
 5. 10YK3/5 埋戻土 ロームブロック(φ5mm)を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、SK-20
 6. 10YK3/4 埋戻土 ローム粒を少量含む、砂や中砂、粘りや中砂、(埋入)
 7. 10YK3/4 埋戻土 ローム粒ブロック(φ5mm)を少量含む、埋入(埋入)埋入(埋入)埋入(埋入)
 8. 10YK3/4 埋戻土 ロームブロック(φ5mm)を少量含む、埋入(埋入)埋入(埋入)埋入(埋入)

第7図 SI-5ピット断面・SI-6・7平面・断面

SI-8



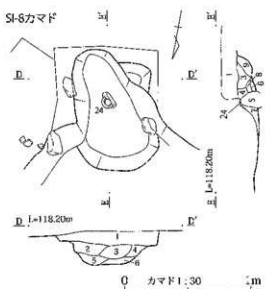
SI-8

- 1a. 陶瓦片・硝子土・土灰・粉石
- 1b. 硝子土・中多量、焼土粒・炭化植物少量、灰層なし・ブロッコ含む（土上部分）
2. 10YR5/4 黄褐色土 As-Cを多量、ロームブロック（ ϕ 10cm以下）を中多量、硝子土・炭化植物を少量含む、砂や中砂、粘りや中。
3. 10YR5/3 黄褐色土 As-Cを中多量、炭化植物（ブロッコ）（ ϕ 10cm以下）を少量、ロームブロックがほとんど含む、砂や中砂、粘りや中。

SI SP1

1. 10YR5/2 黄褐色土 As-C・ロームを少量含む、砂や中砂、粘りや中。
2. 10YR4/6 褐色土 ロームと炭化物の多量を含む、砂や中砂、粘りや中。
3. 10YR5/4 黄褐色土 As-Cを少量、ロームブロック（ ϕ 10cm）を少量含む、砂や中砂、粘りや中。
4. 10YR4/4 褐色土 ロームと炭化物の多量を含む、砂よりロームの含有割合が少ない、砂や中砂、粘りや中。

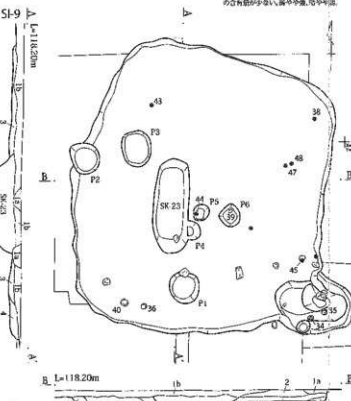
SI-8カマド



SIカマド

1. 硝子土・硝子土・硝子土（硝子土）
2. 10YR5/2 黄褐色土 焼土ブロック（ ϕ 2cm）を少量、硝子土層を中多量含む、砂や中砂、粘りや中。
3. 黄内面硝子土ブロック 硝子土の炭化化する部分あり、ブロックの下に硝子が付着する、不規則部分の硝子層が厚、硝子。
4. 10YR5/2 黄褐色土 硝子土層。
5. 10YR5/2 黄褐色土 焼土ブロック・黄褐色硝子ブロック（ ϕ 5cm）を少量含む、砂や中砂、粘りや中。
6. ローム土の硝子土、砂や中砂、粘りや中。
7. 10YR5/2 黄褐色土 焼土ブロック・硝子土層に硝子土ブロックを中多量含む、砂や中砂、粘りや中。
8. 2.5YR4/1 黄褐色土 硝子土、砂や中砂、粘りや中。
9. 7.5YR5/4 黄褐色土 硝子土を中多量含む、砂や中砂、粘りや中。

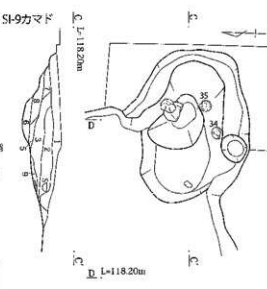
SI-9



SI9

- 1a. 陶瓦
- 1b. 硝子土（ ϕ 1.5以下）
2. 10YR5/3 黄褐色土 As-Cを中多量、ローム塊（ ϕ 10cm）を少量含む、砂や中砂、粘りや中。
3. 10YR5/3 黄褐色土 As-Cを少量、ローム塊を少量含む、砂や中砂、粘りや中。
4. 10YR5/4 黄褐色土（上部）ロームブロックがほとんど含む、砂や中砂、粘りや中。
5. 白灰

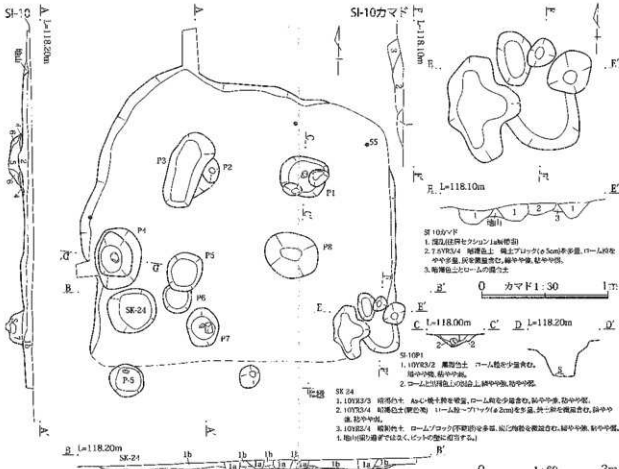
SI-9カマド



SIカマド

1. 硝子土（硝子土・硝子土）
2. 10YR5/3 黄褐色土 硝子土層を中多量含む、硝子土層に硝子土ブロック（不規則）を含む、砂や中砂、粘りや中。
3. 10YR5/3 黄褐色土 硝子土層を中多量含む、砂や中砂、粘りや中。
4. 7.5YR5/3 黄褐色土（上部） 硝子土層（ ϕ 10cm）を中多量含む、砂や中砂、粘りや中。
5. 7.5YR5/3 黄褐色土 硝子土層を少量含む、砂や中砂、粘りや中。
6. 10YR5/4 黄褐色土（上部） ローム土を中多量含む、砂や中砂、粘りや中。
7. 4層にわたる、硝子土が少なし。
8. 10YR5/2 黄褐色土 ローム土を少量含む、砂や中砂、粘りや中。
9. N3 硝子土 硝子土。

第8図 SI-8・SI-9の平面・断面

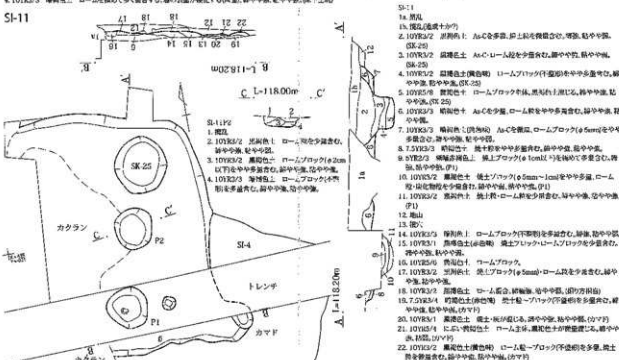


- SI-10カマド**
1. 覆瓦葺四角セクション (4角葺)
 2. 7.10V3/4 腐植土上 黄土ブロック (φ 5cm) を多量に、ローム土を少量、灰を少量含む。砂や中砂、粘や中砂。
 3. 海相白土とロームの混合土
- 0 カマド 1: 30 1m
- A, L=118.00m C, D, L=118.20m

- SI-10P1**
1. 1.0V3/2 腐植土上 ローム土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂。
 2. ローム土が厚い。L100以上。砂や中砂、粘や中砂。
- SK-24**
1. 1.0V3/3 腐植土上 AsC-粘土を少量、ローム土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂。
 2. 1.0V3/4 腐植土 (白土) 上 ローム土ブロック (φ 2cm) を多量に。砂や中砂、粘や中砂。
 3. 1.0V3/4 腐植土上 ロームブロック (不規則的多量)。粘土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂。
 4. 1.0V3/4 腐植土上 粘土が厚い。砂や中砂、粘や中砂。
- 0 1: 60 2m

- SI-10**
- 1a. 粘土 (黒土)
 2. 7.10V3/2 腐植土上 AsC-粘土を少量、黄土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂。
 3. 1.0V3/3 腐植土上 ローム土ブロック (φ 5cm) を少量、黄土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂。
 4. 1.0V3/3 腐植土上 ロームを多く含む。層の厚さが厚い。砂や中砂、粘や中砂、粘土

5. 1.0V3/4 腐植土 (黒土) 上 ローム土ブロック (不規則的多量)。砂や中砂、粘や中砂、粘土
6. 1.0V3/2 腐植土上 ローム土、砂や中砂、粘や中砂、粘土
7. 1.0V3/4 腐植土上 ローム土ブロック (φ 2cm) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土



- SI-11**
1. 14. 瓦葺
 15. 覆瓦 (黒土)
 2. 1.0V3/2 腐植土上 AsCを多量、砂や中砂を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 3. 1.0V3/2 腐植土上 AsC-ローム土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 4. 1.0V3/2 腐植土 (黒土) 上 ロームブロック (不規則的多量) を多量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 5. 1.0V3/3 腐植土上 ローム土ブロック (φ 5cm) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 6. 1.0V3/3 腐植土上 AsCを少量、ローム土を多量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 7. 1.0V3/3 腐植土 (黒土) 上 AsCを少量、ローム土ブロック (φ 5cm) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 8. 1.5V3/3 腐植土上 黄土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 9. 1.0V3/2 腐植土 (黒土) 上 黄土ブロック (φ 1cm) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 10. 1.0V3/2 腐植土 (黒土) 上 黄土ブロック (φ 5mm) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 11. 1.0V3/2 腐植土上 黄土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 12. 腐植土
 13. 腐植土
 14. 1.0V3/3 腐植土上 ローム土ブロック (不規則的多量) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 15. 1.0V3/1 腐植土 (黒土) 上 黄土ブロック (φ 5mm) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 16. 1.0V3/2 腐植土上 ローム土ブロック (φ 5mm) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 17. 1.0V3/2 腐植土上 黄土ブロック (φ 5mm) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 18. 1.0V3/2 腐植土上 ローム土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 19. 1.0V3/2 腐植土 (黒土) 上 黄土ブロック (不規則的多量) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 20. 1.0V3/1 腐植土上 黄土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 21. 1.0V3/2 腐植土上 黄土を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土
 22. 1.0V3/2 腐植土 (黒土) 上 ローム土ブロック (不規則的多量) を少量含む。砂や中砂、粘や中砂、粘土

第9図 SI:11平面・断面

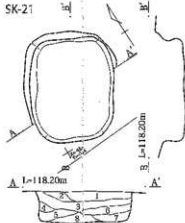
SK-20



SK-20

1. 概観
2. 7.5YR3/3 黒褐色土 As C-ヒームブロック(φ 5mm以下)を中多量、無化物を少量含む、同層内に焼いた灰土層、緑や中黄、緑や中黄。
3. 7.5YR3/2 赤褐色土 As C-壁上段・ヒームブロック(不定形)を少量含む、緑や中黄、緑や中黄。
4. 7.5YR4/4 黒褐色土 焼いた腐葉土、緑褐色、緑褐色。
5. 10YR3/2 黒褐色土 焼いた腐葉土(厚層)を少量、赤土層に覆蓋含む、緑や中黄、緑や中黄。
6. 腐葉土
7. 地山

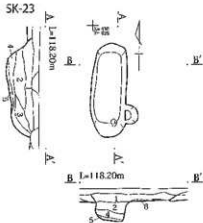
SK-21



SK-21

1. 10YR3/3 黒褐色土 As C-ヒームを中多量、焼いた腐葉土を少量含む、緑や中黄、緑や中黄。
2. 1層より上段が深い。
3. 10YR3/4 暗褐色土(灰色) As Cを少量、ロームブロック(不定形)を多く含む、緑や中黄、緑や中黄。
4. 10YR3/4 暗褐色土 ローム層・ブロック(φ 5mm)を中多量含む、緑や中黄、緑や中黄。
5. 10YR3/3 暗褐色土 As C-地上段を露出、ロームブロック(不定形)を少量含む、緑や中黄、緑や中黄。
6. 腐葉土、ロームブロックが深い。
7. 10YR4/4 黒褐色土 ローム層・ブロック(φ 3cm以下)を多く含む、緑や中黄、緑や中黄。
8. 10YR3/2 黒褐色土 As Cを少量、ロームブロック(不定形)を中多量含む、緑や中黄、緑や中黄。

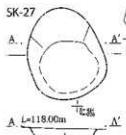
SK-23



SK-23

1. 10YR3/2 黒褐色土 As Cを露出、ロームブロック(φ 1cm以下)を中多量含む、緑や中黄、緑や中黄。
- 10YR3/2 黒褐色土(灰褐色) ヒームを多く含む、緑や中黄、緑や中黄。
- 10YR3/3 黒褐色土(灰褐色) ヒームを少量含む、緑や中黄、緑や中黄。
- 10YR3/2 黒褐色土(灰褐色) ロームブロック(φ 1cm以下)を少量含む、緑や中黄、緑や中黄。
- 5.Y2 黒土 灰褐色、ロームが少量混入する部分がある。
- 5.Y2 黒土 灰褐色、腐葉土に覆蓋して赤土層が部分的にある。

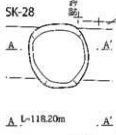
SK-27



SK-27

1. 10YR3/4 黒褐色土 ローム層・灰土層・灰色腐葉土を含む、緑褐色、緑褐色。
2. 10YR4/3 灰色・黄褐色土(砂) 1層・2層・灰色腐葉土を含む、緑褐色、緑褐色。

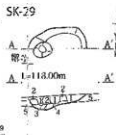
SK-28



SK-28

1. 10YR3/1 黒褐色土 As Cを中多量含む、緑や中黄、緑や中黄。
2. 10YR3/2 黒褐色土 As Cを少量含む、緑や中黄、緑や中黄。

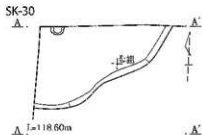
SK-29



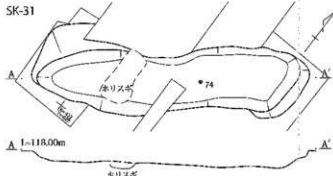
SK-29

1. 概観
2. 5YR4/4 灰色・黒褐色土 灰土ブロック(φ 5mm以下)を中多量含む、緑や中黄、緑や中黄。
3. 7.5YR3/3 暗褐色土 腐葉土 腐葉土を少量含む、緑や中黄、緑や中黄。
4. 7.5YR3/2 暗褐色土 腐葉土 腐葉土を少量含む、緑や中黄、緑や中黄。
5. 地山

SK-30



SK-31



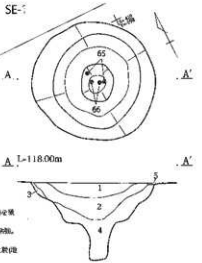
SK-32



SE.1

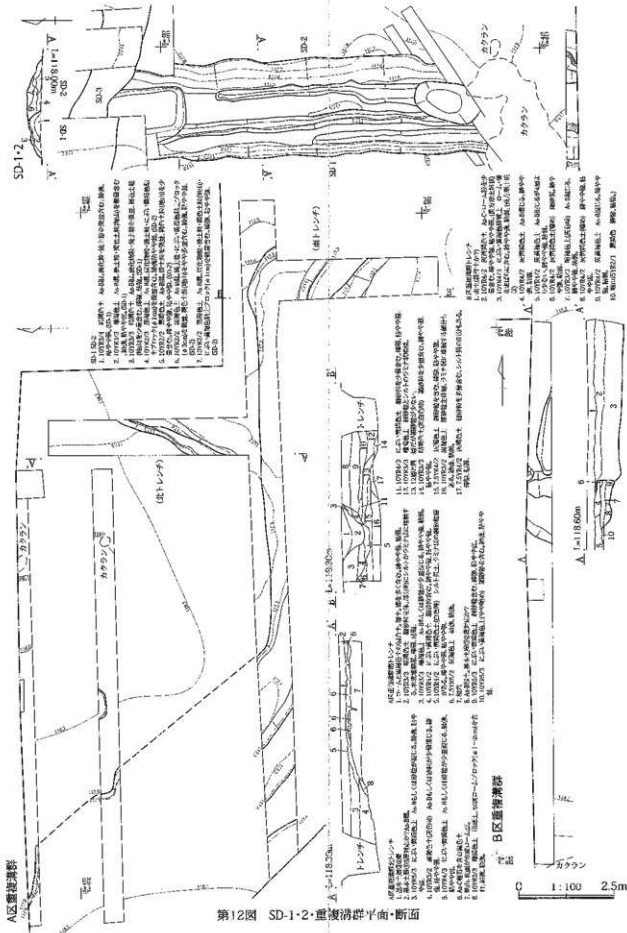
1. 10YR2/3 赤褐色土 腐葉土・腐葉土(厚層)を少量含む、焼いた腐葉土(φ 1cm)を少量含む、赤褐色(灰色)・白色腐葉土を少量含む、人糞の腐葉土、緑褐色、緑褐色。
2. 10YR2/3 赤褐色土 腐葉土・腐葉土(厚層)を少量含む、焼いた腐葉土(φ 1cm)を少量含む、赤褐色、緑褐色。
3. 10YR2/3 赤褐色土 腐葉土・腐葉土(厚層)を少量含む、焼いた腐葉土(φ 1cm)を少量含む、赤褐色、緑褐色。
4. 10YR2/2 赤褐色土 腐葉土・腐葉土(厚層)を少量含む、焼いた腐葉土(φ 1cm)を少量含む、赤褐色、緑褐色。
5. 腐葉土

SE.1



0 1:60 2m

第11図 SK-20・21・23・27~32・SE.1平面・断面



SD-1・2

A区削挖溝群

B区重複溝群

- 記号
1. 削挖溝 (A区)
 2. 削挖溝 (B区)
 3. 削挖溝 (C区)
 4. 削挖溝 (D区)
 5. 削挖溝 (E区)
 6. 削挖溝 (F区)
 7. 削挖溝 (G区)
 8. 削挖溝 (H区)
 9. 削挖溝 (I区)
 10. 削挖溝 (J区)
 11. 削挖溝 (K区)
 12. 削挖溝 (L区)
 13. 削挖溝 (M区)
 14. 削挖溝 (N区)
 15. 削挖溝 (O区)
 16. 削挖溝 (P区)
 17. 削挖溝 (Q区)
 18. 削挖溝 (R区)
 19. 削挖溝 (S区)
 20. 削挖溝 (T区)
 21. 削挖溝 (U区)
 22. 削挖溝 (V区)
 23. 削挖溝 (W区)
 24. 削挖溝 (X区)
 25. 削挖溝 (Y区)
 26. 削挖溝 (Z区)

1. 削挖溝 (A区)
2. 削挖溝 (B区)
3. 削挖溝 (C区)
4. 削挖溝 (D区)
5. 削挖溝 (E区)
6. 削挖溝 (F区)
7. 削挖溝 (G区)
8. 削挖溝 (H区)
9. 削挖溝 (I区)
10. 削挖溝 (J区)
11. 削挖溝 (K区)
12. 削挖溝 (L区)
13. 削挖溝 (M区)
14. 削挖溝 (N区)
15. 削挖溝 (O区)
16. 削挖溝 (P区)
17. 削挖溝 (Q区)
18. 削挖溝 (R区)
19. 削挖溝 (S区)
20. 削挖溝 (T区)
21. 削挖溝 (U区)
22. 削挖溝 (V区)
23. 削挖溝 (W区)
24. 削挖溝 (X区)
25. 削挖溝 (Y区)
26. 削挖溝 (Z区)

1:100 2.5m

第12図 SD-1・2 重複溝群平面・断面

な関係は無いものと想定しておきたい。

一方、D区のはほぼ全ては溝の範囲に含まれていた。遺土中に流水痕跡が認められないため、B区にて検出した溝の延長と考えられる。出土遺物は極めて少ないが、赤色塗料がわずかに付着する鉄製品(鉄6)があり、近頃の遺物と考えた。他に砥石(表1)を提示したが、こちらは古代の遺物であろう。

第1表 土坑計測値など一覽表

番号	位置	形状	中層部	深層部	遺物(表1・表2)	年代	土坑の用途	遺物の用途	検出時期
SK-1	X-420・Y-009H区	円形	円形	円形	12・13	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-2	X-421・Y-009H区	円形	円形	円形	14・15	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-3	X-421・Y-001H区	楕円形	楕円形	楕円形	16・17	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-4	X-422・Y-006H区	円形	円形	円形	18・19	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-5	X-420・Y-008H区	楕円形	楕円形	楕円形	20・21	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-6	X-420・Y-008H区	楕円形	楕円形	楕円形	22・23	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-7	X-420・Y-008H区	楕円形	楕円形	楕円形	24・25	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-8	X-420・Y-008H区	楕円形	楕円形	楕円形	26・27	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-9	X-420・Y-008H区	楕円形	楕円形	楕円形	28・29	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-10	X-420・Y-008H区	楕円形	楕円形	楕円形	30・31	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-11	X-427・Y-015H区	円形	円形	円形	32・33	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-12	X-423・Y-027H区	円形	円形	円形	34・35	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-13	X-420・Y-020H区	楕円形	楕円形	楕円形	36・37	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-14	X-420・Y-020H区	楕円形	楕円形	楕円形	38・39	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-15	X-427・Y-021H区	円形	円形	円形	40・41	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-16	X-425・Y-021H区	円形	円形	円形	42・43	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-17	X-420・Y-031H区	楕円形	楕円形	楕円形	44・45	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-18	X-420・Y-031H区	楕円形	楕円形	楕円形	46・47	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-19	X-427・Y-032H区	円形	円形	円形	48・49	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-20	X-440・Y-033H区	楕円形	楕円形	楕円形	50・51	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-21	X-420・Y-034H区	楕円形	楕円形	楕円形	52・53	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-22	X-420・Y-035H区	楕円形	楕円形	楕円形	54・55	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-23	X-430・Y-035H区	楕円形	楕円形	楕円形	56・57	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-24	X-426・Y-035H区	楕円形	楕円形	楕円形	58・59	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-25	X-430・Y-035H区	楕円形	楕円形	楕円形	60・61	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-26	X-430・Y-035H区	楕円形	楕円形	楕円形	62・63	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-27	X-430・Y-035H区	楕円形	楕円形	楕円形	64・65	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-28	X-442・Y-028H区	楕円形	楕円形	楕円形	66・67	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-29	X-434・Y-039H区	楕円形	楕円形	楕円形	68・69	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-30	X-441・Y-033H区	楕円形	楕円形	楕円形	70・71	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-31	X-422・Y-029H区	楕円形	楕円形	楕円形	72・73	11世紀	土坑	土坑	11世紀
SK-32	X-438・Y-013H区	円形	円形	円形	74・75	11世紀	土坑	土坑	11世紀

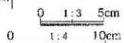
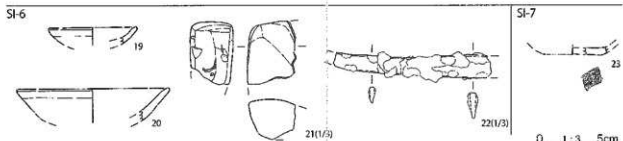
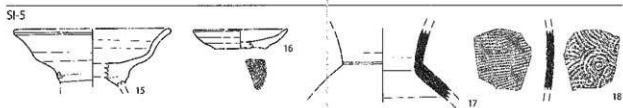
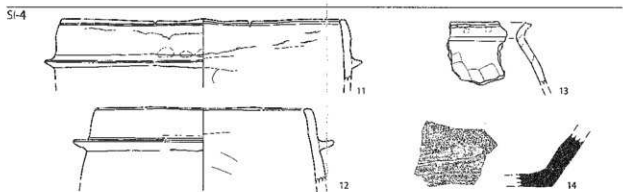
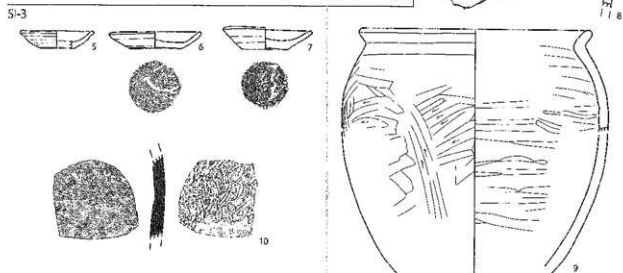
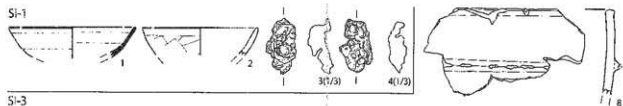
VI. まとめ

本遺跡では竪穴住居跡を主体とする集落跡を検出した。出土遺物の検相は平安時代に該当し、近隣の鳥羽遺跡の土器分類を参照すれば、おおむね15段階～24段階に包含されると考えられる。その中でも主体となるのは22段階以降である。年代的には9～11世紀代に比定でき、SI-1・2、SE-1が9世紀代、SI-3～11が10世紀後半(末)～11世紀代と判断した。土坑の多くは覆土の状況から平安時代の箱溝と考えたが、その機能も含めて不明瞭な点が多い。溝跡についてはAs-B混土の覆土からみて中世以降と考えるが、中でもSD-3は近代の掘り込みである。

今回の発掘調査によって10～11世紀代の竪穴住居跡が主体的に見つかったことは注目でき、本遺跡での9世紀代の遺構が客体的であることをふまれば、9世紀から10世紀へと移行する時期に、集落立地の主体が移動した可能性を予測する。このことについて、今回の調査成果のみからは判断できないが、当該期の集落動態は興味ある事象としてとらえておきたい。すなわち、上野国府推定地周辺での集落動態は、律令時代から上朝国家期の宴容環相を、集落レベルで把握する上での検討材料になると思われるからである。集落移動を示す調査事例としては古閑町沼南遺跡が挙げられ、金竹西遺跡や熊野遺跡からの人々の移動が予測されている。

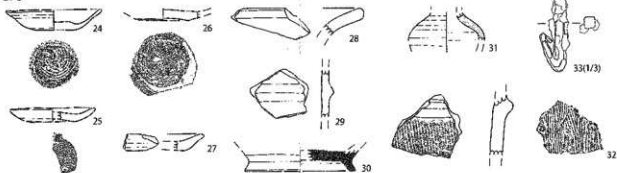
平安時代以外の遺構では、中世以降の溝跡や近世～現代まで機能したと考えうる重複溝が確認されている。中世以降の時期を考えたSD-1・2は区画溝としての性格を想定することもでき、本遺跡の西側に所在する菅谷城との関連も考慮する必要がある。一方で近世～現代までの時期を考えた重複溝には、ひとまず農業用水路としての機能を推測しておく。この検証には古地図や絵図などの検討が有効と認識しているが、今回は実践することができなかった。

- 【参考文献】 堀ヶ岡村誌編纂委員会『堀ヶ岡村誌』1956 堀ヶ岡村役場
 徳岡 邦男 他『鳥羽遺跡：J・K区』1988 群馬県歴史文化財調査事業団
 松村 和男 他『沼南遺跡』1999 群馬県歴史文化財調査事業団
 中沢 伊 他『清室・陣場遺跡』1981 群馬県歴史文化財調査事業団

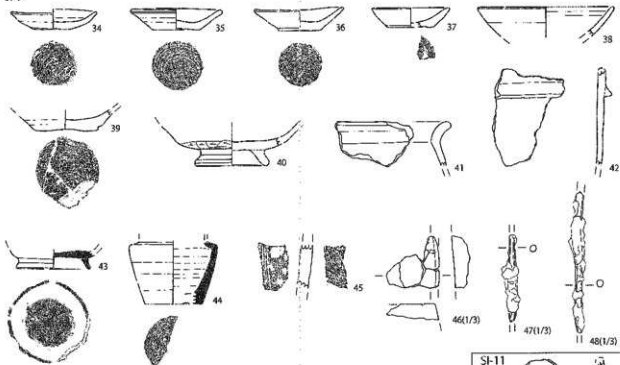


第13図 SI-1~7遺物

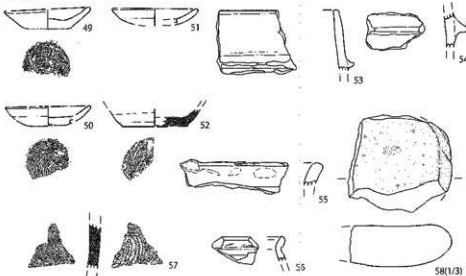
SI-8



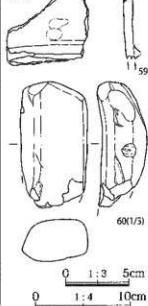
SI-9



SI-10

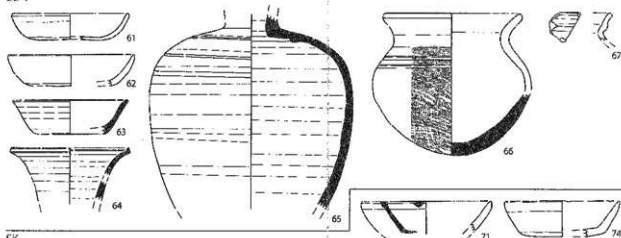


SI-11

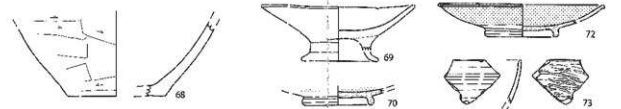


第14図 SI-8~11遺物

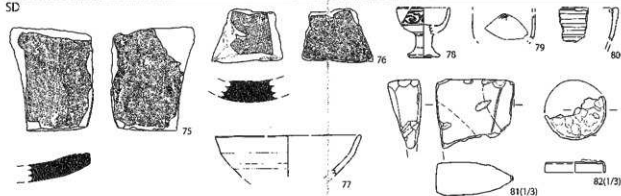
SF-1



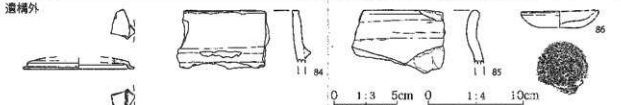
SK



SD



遺構外



第15図 SF-9・SK・SD・遺構外遺物

第2表 遺物観察表(1)

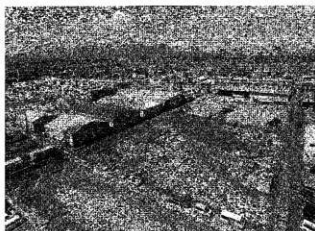
番号	遺物	出土位置	種類・形状	白陶層 口内・底径・高さ (cm) () 底径 () 高さ・厚さ	構成	色相	保存状況	成・鑑定方法の解説など
1	SF-1	粘土	深鉢・杯	(13.4)・(13.2)	陶化	黄褐色	口縁部破片	内・外底・口口部陶化
2	SF-1	粘土	土師器・杯	(12.2)・(2.9)	陶化	褐色	口縁部破片	外底：白磁器残片・体部附けヘラズリ。内底：子子 管焼のある黒色で、赤褐色の陶化部分が多い。外面に黒刺打がある。
3	SK-1	管土	深鉢	表 4.4cm・底 2.4cm・厚 1.4cm・重 20.1g	陶化	褐色	完整	管焼のある黒色で、赤褐色の陶化部分が多い。外面に黒刺打がある。
4	SK-1	管土	深鉢	表 4.1cm・底 2.4cm・厚 1.3cm・重 17.8g	陶化	褐色	完整	管焼のある黒色で、赤褐色の陶化部分が多い。外面に黒刺打がある。
5	SK-1	管土	土師器・杯	(7.8)・(3.7)・1.8	陶化	褐色	口縁一部破片	内・外底・口口部陶化
6	SK-3	埴土	土師器・杯	8.7・5.2・1.8	陶化	紅褐色・黄褐色	口縁 1/2 欠	内・外底・口口部陶化。底面に黒刺打あり。
7	SK-3	埴土	土師器・杯	8.4・5.0・2.4	陶化	黄褐色	完整	内・外底・口口部陶化。底面に黒刺打あり。
8	SK-3	埴土	深鉢	・・・(5.3)	陶化	紅褐色	完整	外底：子子・黒刺打あり。内底：子子。
9	SK-3	埴土	土師器・杯	(4.6)・(2.6)・1	陶化	赤褐色	口縁一部破片	外底：ヘラズリ。内底：ヘラズリ。
10	SK-3	埴土	深鉢・杯	・・・(8.9)	陶化	灰色	口縁部破片	内底：管土。
11	SK-4	管土	深鉢	(10.8)・(7.3)	陶化	紅褐色	口縁 1/4 欠	外底：子子。内底に黒刺打あり。内底に黒刺打あり。内底：ヘラズリ。

第3表 遺物観察表(2)

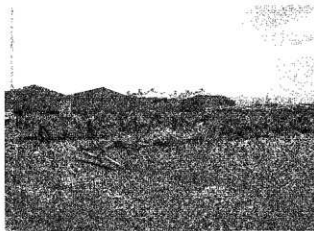
番号	遺物	出土位置	種類・部名	計測値		形状	色澤	保存状況	試・分析方法の備付状況	
				口径・径長・幅等 (cm)	() 容 () 重 () 容積					
12	34-4	竪上	銅鏡	(2.6)	---	(0.9)	藍色	口縁部破片	内面: ナナ。裏面は鏡面が上面を模倣する。内面: ヘウナナナ	
13	34-4	竪上	十指	---	---	(0.6)	藍色	輪状破片	内面: ナナ。裏面は鏡面が上面を模倣する。内面: ナナ。	
14	34-4	竪上	銅鏡・鏡背	---	---	(0.7)	藍色	口縁部破片	内面: ナナ。裏面: 鏡面が上面を模倣する。内面: ナナ。	
15	35-5	竪上	土製・土	11(6.5)	(0.8)	(0.1)	藍色	1/2 破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
16	35-5	竪上	土製・土	10(2)	(0.8)	(0.2)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
17	35-5	竪上	土製・土	---	---	(0.7)	藍色	口縁部破片	口縁部破片	
18	35-5	竪上	土製・土	---	---	(0.9)	藍色	口縁部破片	内面: 甲色。内面: 黒色(裏面は鏡面)。	
19	35-6	竪上	土製・土	5(4)	---	(1.4)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。	
20	35-6	竪上	土製・土	16(2)	---	(3.8)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。	
21	35-6	竪上	土製・土	長 11.0cm・幅 7.0cm・厚 3.2cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。	
22	35-6	竪上	土製・土	長 11.2cm・幅 8.1cm・厚 0.5cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。	
23	35-7	竪上	土製・土	---	---	(0.5)	(0.9)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。
24	35-8	竪上	土製・土	10.1	4.4	2.1	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。二枚破片の片は互いに内側。ただし縁部は破片。	
25	35-8	竪上	土製・土	8(0)	(5.1)	1.5	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
26	35-8	竪上	土製・土	---	---	(1.1)	藍色	口縁部破片	口縁部破片。縁部は少し高台部分。	
27	35-8	竪上	土製・土	---	---	1.8	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
28	35-8	竪上	土製・土	---	---	(0.3)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。	
29	35-8	竪上	土製・土	---	---	(0.2)	藍色	口縁部破片	口縁部破片。縁部は少し高台部分。	
30	35-8	竪上	土製・土	---	---	(1.6)	(2.8)	藍色	口縁部破片	口縁部破片。縁部は少し高台部分。
31	35-8	竪上	土製・土	---	---	(0.2)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
32	35-8	竪上	土製・土	---	---	(0.8)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。	
33	35-8	竪上	土製・土	長 6.0cm・幅 0.9cm・厚 0.9cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
34	35-8	竪上	土製・土	8.1	4.8	2.1	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
35	35-8	竪上	土製・土	8.6	5.1	2.2	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
36	35-8	竪上	土製・土	8.4	4.8	2.4	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
37	35-8	竪上	土製・土	長 7.2cm・幅 2.1cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
38	35-8	竪上	土製・土	14.4	---	(3.4)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
39	35-8	竪上	土製・土	---	---	(8.2)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。縁部は少し高台部分。	
40	35-8	竪上	土製・土	---	---	(4.6)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
41	35-8	竪上	土製・土	---	---	(4.8)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。	
42	35-8	竪上	土製・土	---	---	(10.3)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
43	35-8	竪上	土製・土	---	---	(4.9)	藍色	口縁部破片	口縁部破片。	
44	35-8	竪上	土製・土	---	---	(0.9)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
45	35-8	竪上	土製・土	---	---	(0.3)	藍色	口縁部破片	口縁部破片。	
46	35-8	竪上	土製・土	長 11.3cm・幅 11.3cm・厚 0.8cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: 縁部は少し高台部分として使用される。	
47	35-8	竪上	土製・土	長 10.2cm・幅 0.5cm・厚 0.5cm	---	---	藍色	口縁部破片	縁部は少し高台部分。	
48	35-8	竪上	土製・土	長 11.2cm・幅 0.5cm・厚 0.5cm	---	---	藍色	口縁部破片	縁部は少し高台部分。	
49	35-10	竪上	土製・土	9.1	5.0	2.3	藍色	口縁部破片	1/2 破片	
50	35-10	竪上	土製・土	3(0)	4.3	2.1	藍色	口縁部破片	1/2 破片	
51	35-10	竪上	土製・土	---	---	(1.7)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
52	35-10	竪上	土製・土	---	---	(2.2)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
53	35-10	竪上	土製・土	---	---	(6.8)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
54	35-10	竪上	土製・土	---	---	(4.0)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
55	35-10	竪上	土製・土	---	---	(3.6)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
56	35-10	竪上	土製・土	---	---	(3.0)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
57	35-10	竪上	土製・土	---	---	(3.0)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
58	35-10	竪上	土製・土	長 7.0cm・幅 0.8cm・厚 0.3cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
59	35-11	竪上	土製・土	---	---	(1.0)	藍色	口縁部破片	口縁部破片。	
60	35-11	竪上	土製・土	長 10.0cm・幅 3.0cm・厚 3.3cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: 縁部は少し高台部分として使用される。	
61	35-11	竪上	土製・土	12(4)	6(6)	2.8	藍色	口縁部破片	内面: ナナ。裏面: 縁部は少し高台部分。	
62	35-11	竪上	土製・土	13(4)	6(6)	3.2	藍色	口縁部破片	内面: ナナ。裏面: 縁部は少し高台部分。	
63	35-11	竪上	土製・土	12(2)	7(5)	3.5	藍色	口縁部破片	内面: ナナ。裏面: 縁部は少し高台部分。	
64	35-11	竪上	土製・土	12(6)	---	(0.2)	藍色	口縁部破片	内面: ナナ。裏面: 縁部は少し高台部分。	
65	35-11	竪上	土製・土	---	---	(2.2)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
66	35-11	竪上	土製・土	---	---	(1.3)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
67	35-11	竪上	土製・土	---	---	(3.2)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
68	35-15	竪上	土製・土	---	---	(1.8)	藍色	口縁部破片	内面: ナナ。裏面: ナナ。	
69	35-22	竪上	土製・土	16.2	7(8)	6.0	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
70	35-17	竪上	土製・土	---	---	(2.0)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
71	35-23	竪上	土製・土	13(4)	---	(3.5)	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
72	35-22	竪上	土製・土	17(6)	7(7)	3.5	藍色	口縁部破片	内・外側: ロウカ陶器。縁部は少し高台部分。	
73	35-25	竪上	土製・土	---	---	(4.8)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
74	35-31	竪上	土製・土	12(2)	6(2)	3.8	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
75	35-31	竪上	土製・土	長 11(8)	幅 8(8)	厚 1.9	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
76	A16-6	竪上	土製・土	長 6(7)	幅 7(7)	厚 2.2	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
77	A16-6	竪上	土製・土	---	---	(4.4)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
78	A16-6	竪上	土製・土	---	---	(5.3)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
79	A16-6	竪上	土製・土	---	---	(2.2)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
80	A16-6	竪上	土製・土	---	---	(5.5)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
81	D16-6	竪上	土製・土	長 11(8)cm・幅 8(8)cm・厚 2(2)cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
82	D16-6	竪上	土製・土	長 11(8)cm・幅 8(8)cm・厚 2(2)cm	---	---	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
83	D16-6	竪上	土製・土	---	---	(1.2)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
84	D16-6	竪上	土製・土	---	---	(0.1)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
85	D16-6	竪上	土製・土	---	---	(0.7)	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	
86	D16-6	竪上	土製・土	---	---	1.9	藍色	口縁部破片	内・外側: ナナ。縁部は少し高台部分。	



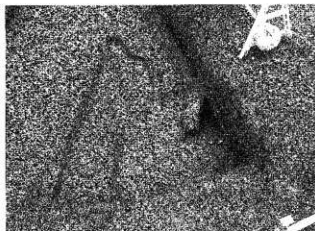
調査区全景(上が北)



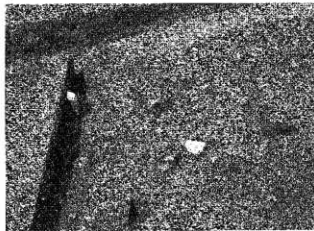
調査区鳥瞰(北西を望む/奥が嶺名山)



調査前現況(南東から)



SI-1・2全景(西から)

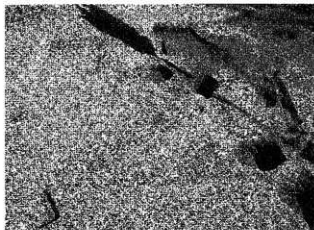


SI-3全景(南から)

写真図版 2



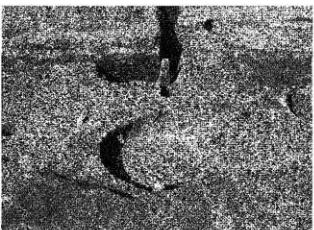
SI-4 全景 (北西から)



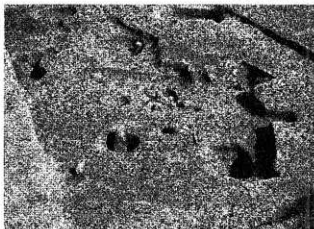
SI-5 全景 (北西から)



SI-6 全景 (西から)



SI-7 全景 (南から / SK-23 を含む)



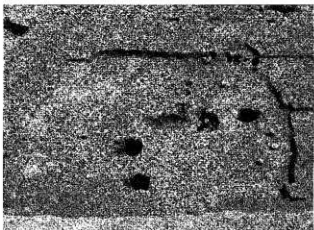
SI-8 全景 (北西から)



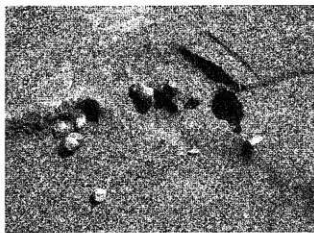
SI-8 カマド 全景 (北西から)



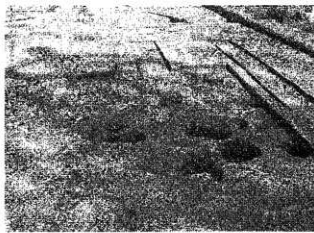
SI-8 カマド 遺物出土状況 (西から)



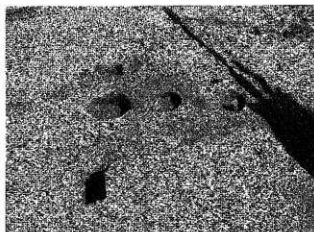
SI-9 全景 (西から)



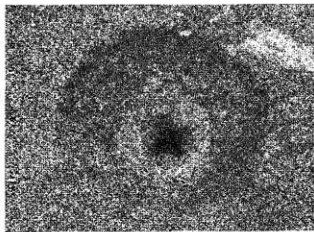
SI-9 カマド全景 (西から)



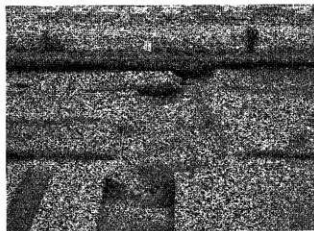
SI-10 全景 (西から)



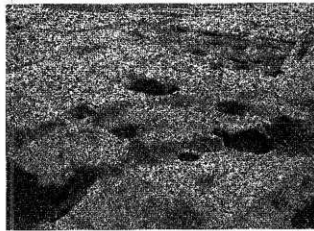
SI-11 全景 (北西から)



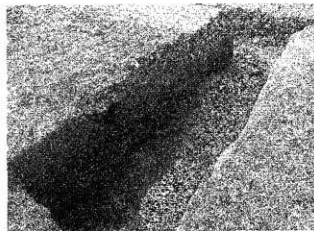
SE-1 全景 (南から)



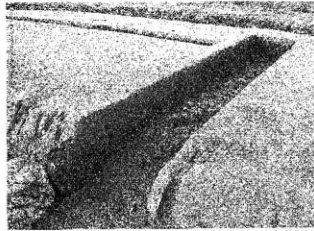
SD-1・2 全景 (北から)



SK-14 周辺 (南西から)



A区南トレンチ断面 (南東から)



A区北トレンチ断面 (南東から)

写真図版 4

SI-1



1



2



3

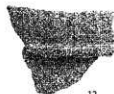


4

SI-4



11



12



13

SI-5



17



15

SI-6



20



21

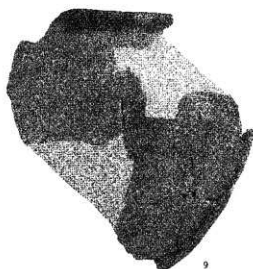


22

SI-3



8



9



6



7

SI-8



29



31



32



25



24



33

SI-9



41



42



35



36



44



47



48



40



43



34

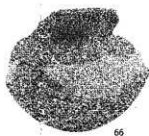
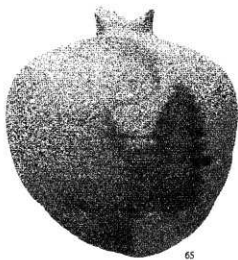
SI-10



SI-11



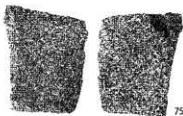
SE-1



SK



SD



遺構外



発掘調査報告書抄録

ふりがな	すがや・むらひがしいせき 4
書名	菅谷・村東遺跡 4
副書名	看護・介護施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	—
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第281集
編著者名	水谷 貴之(編) 山崎 悟
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町 35 番地 1 TEL 027-321-1292
発行年月日	2011年4月28日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
所収遺跡名	所在地							
菅谷・村東遺跡 (第4次)	高崎市菅谷町字 村東20-187他	10202	480	36° 22' 47"	139° 01' 10"	2010.07.26 ～ 2010.09.18	約1.182㎡	看護・ 介護施設 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
菅谷・村東遺跡 (第4次)	集落	平安時代 中・近世以降	聖穴住居跡、 土坑、井戸、 ピット、溝	土師器、須恵器、 ロクロ使用酸化 焙焼成土器、灰 粘陶器、鉄製品、 石製品、陶磁器	平安時代の集落跡を調査した。9～11世紀代と考えられる。出土遺物は全体的に少ない。

要約	<p>本遺跡では平安時代の集落跡を調査した。聖穴住居跡の総築時期は9世紀代が2軒、10世紀後半(末)～11世紀代が9軒と考えられる。井戸跡は9世紀代である。土坑については平安時代の標識と判断したが、不明瞭な部分が多い。溝跡は全て中世以降であり、重機溝跡は近世～現代まで機能したと推測した。</p> <p>本遺跡での調査成果では、9世紀代の遺構は客体的であり、10～11世紀代の遺構が主体をなしている。周辺での調査事例は藪原遺跡にあるものの、9世紀から10世紀へと移行する時期に集落占地の移動があったと予測したい。推定上野国府周辺という立地条件をふまえば、この時期の集落占地の突進は興味ある事象としてとらえられる。</p>
----	--

高崎市文化財調査報告書第281集

菅谷・村東遺跡 4

—看護・介護施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成23年4月21日 印刷

平成23年4月28日 発行

編集・発行 高崎市教育委員会

印刷 上毎印刷工業株式会社